

改正
増補

和漢年代記

卷之四

景行

成務

仲哀

神功皇后

應神

仁徳

漢

後漢明帝北永平

十四年より晋の安帝の

隆安三年より





改正和漢年代紀卷之四



元景行

諱ハ大足彦忍

代別乃尊光帝才三
の皇子なり母ハ日景
酢姫し丹波道主
の王の女なり廿一歳
して太子となり八十四
歳して位よほき孫ふ
位よほしゆとす
年〇三月十二日田道
間守の命常世の

正月朔五嶽の道士楮善信
者仙術し佛法の勝劣
と試んとす詔して許し同
十五日白馬寺北南門に道經
と佛經とをたべて燒道經ハ
やけ佛經ハ燒ず此時同時
僧となり者官女九十人名卿
二百六十人四嶽の道士六百廿人
李者三百九十八人〇三月唐延
罪わけて自害と邪穆と自徒
とす〇楚王英自害す

後漢の明帝十四

三
元
景
行

國より香菓と求めて入り垂仁天皇の崩御とて
驚死す。○七月十一日位よつしまふ。○これより元祿六年癸
酉のやうして千六百廿三年よにまふ

二 三月播磨の壬申三月帝魯の國孔子の宅に詣す。○皇十五
子六人と王に封す

三 二月朔紀の癸酉五月刑穆罪あり獄に死す。○沙門六
十騰入寂とす

四 二月十日帝甲戌西南の夷自狼艘木甘の百餘國臣十七
と稱して貢とせし。○王敏死す。鮑昱
と司徒とす。○天く才廿祖闇夜多に叙す

五 八月帝崩す。壽四十八。顯節陵とせし。大
びる。○趙意と太傅と一。年融と太尉と
一。第五倫と司空とと

六 丙子才章帝。諱ハ炟。明帝の子なり。建
位ありし。十三年。○青初

七 春三公に詔して非法とたす

八 四月子の慶と皇太子と一。鮑昱と太尉と
一。桓虞と司徒とす。○十月儒臣と自
虎觀小わのめ五經の同異と議しむ

九 二月朔日とす。五月太傅の趙意死す

十 漢海の湖

坂入姫と妃と一。まの十月都と纏向と一。日代の宮と一

よひの嶋とさいげら今の作生嶋なり

十一 辛巳六月太尉の鮑昱死す七月鄧彪と太尉と六

十二 辛酉豊前の國より幸六月太子慶と廢して清河王より子七

土蜘蛛いづくの肇とたてく皇太子とす兼何の子

人とてこなふ孫業熊と鄧侯と封す

○七月熊襲そびく八月帝築紫より幸なりてとげり

諸國の領とる者と征伐しより○九月豊前の國長峽より

到り多ひらの宮とたて其処と号して京とす十月日向

の國高屋の宮とみり○日本武の尊じまる

十三 成務天皇の癸未

ましあ同日は武内宿禰生る○帝もくも熊襲國と平ま

十四 甲申八月鄧彪が官とやめ鄧弘と太尉とす冬元

孔子の孫孔僖と蘭臺の令史とす○

十五 乙酉二月四分曆と行ふ

鳳凰白鹿白鳥の瑞あり王景金人の頌とより先帝佛と崇一切とほじる

十六 丙戌詔して兒の親類なり子あれども養ふ

とせざる者と賑ふむ曹廢し詔して礼儀百千篇と定む○四月鄧弘

が太尉の印とたぬあ宋由と太尉とて五月

月第五倫が司空とやめ袁安と司空とす

十七 三月帝京

へ向ふと築紫國

と巡りてをせたりと

十八 四月より七月戊子正月帝崩す壽世歳三月教陵より

一任槐と司空とす○八月匈奴五八私

部来り降参と

二

月まで帝築紫の國とわがらて從う者征伐し
六月阿蘇よりして筑原よりして人の居えず帝
この國よ入わらると尋ふ阿蘇津彦と阿蘇津姫よ
二人の神人よ化して帝よままえこの國をんぞ人か
との病ふ今肥後の阿蘇の宮に此神の事り

十九月廿日帝己丑
和帝 護の肇章帝の子なり
位よありし十七年實太先

了りまふ 后朝よのぞと鄧彪と太傅とす

廿二月四日百庚寅 月氏國より使とけりるげ物と奉る
野の姫とつる一太神宮と祭りしめ法ふ

廿廿 卒卯 龜茲國姑墨國温宿國などの諸国來る

廿廿 壬辰 三月袁安死す下鴻と司徒とす四月實憲
憲が威とほりおまにすより帝郡臣

とくろり實憲と誅す班固獄めて死す
班固よりて前漢書とけりる成す
て死す班固が妻のよと曹壽が妻曹
大家にいで録と○官者の鄭衆と大
長秋とす官者の權と用るとん
ら始る七月宋由罪よりて官とん
らる八月任隗死す尹睦と太尉と
刘芳と司空とす

廿三 癸巳 正月鄧彪死す六月諸國よわられ
大と雞子のどし十月尹睦死す張
酺と太尉とす

廿四 甲午 春千鴻死す刘芳と司徒と張奮と六
司空とす○河東の池水赤して血の如し

廿七月武内の子末四月朔日つひらく
宿称と北陸道よはらう其風俗と察せしめあふ

廿八月熊襲くまざり文丁酉三月隋西地震す六月大旱す詔して

そびく十月十三日日本武やまとたけ轉ま稜らと司空しやうくわうす

の身とつるしれとてしし十二月軍と率して熊襲

よらり川上の梟師たかが脚あしと刺してしらす

廿二月朔日本戊戌七月轉稜死す采堪さいかんと司空しやうくわうす

武の尊熊襲と来くろの状とまてまのる

廿廿四月神畝山しんぶさんの月々七月朔日しつげつとて張ちやう高かうと太尉たうゐとす

廿廿五月帝崩す壽廿七

廿廿六月帝崩す壽廿七

廿廿七月帝崩す壽廿七

廿廿八月帝崩す壽廿七

廿廿九月帝崩す壽廿七

廿廿十月帝崩す壽廿七

廿廿十一月帝崩す壽廿七

廿廿十二月帝崩す壽廿七

廿廿一月帝崩す壽廿七

廿廿二月帝崩す壽廿七

廿廿三月帝崩す壽廿七

廿廿四月帝崩す壽廿七

廿廿五月帝崩す壽廿七

廿廿六月帝崩す壽廿七

廿廿七月帝崩す壽廿七

廿廿八月帝崩す壽廿七

廿廿九月帝崩す壽廿七

廿廿十月帝崩す壽廿七

廿廿十一月帝崩す壽廿七

廿廿十二月帝崩す壽廿七

乙未	才	六

太傅徐防太尉梁瑄司徒
徒少育先帝慎陵の事四月鄧
騭と後同三司に陳寔死す尹勤と自
宰ん八月帝崩す九月康陵の事
十月大水電の隠逸の者とのげ
博士との事

丁未 才 六

安帝 諱祐章帝の孫清河永
孝主の子なり鄧太后の初

久て位よりし位よりありし十九年鄧
太后は公朝のぞむ二月梁瑄死す四
月鄧騭と才の性弘闇とを列侯とを
鄧騭の辞してうけず五月まゝ魯恭と
司徒とす九月冠賊大雨大水の変

あつとら大尉の徐防自空の手勤官
とらつ三公の災変とてとあること
これらけらまふ

庚戌	申	酉

六月大水大風ありし〇滇零の乱
天子と稱して鈔と冠となす〇揚震と
はめし関西の孔子とふ

魯恭やめらる〇京師大に飢饉して
人人とくふ〇九月海賊の張伯路濱
海に冠となす〇諸賊比自支てあはる

辛巳	辰	巳

六月東夷を
征す

冠賊やまず災志とらふはらひよる
樂とらふ〇夏より秋まで大水地震す

と侵す七月十六日帝武具と日本武の尊よらけむ
備の武彦の連と大伴の武日連との二人とて東

庚と征伐せしむ七月七日日本武の尊伊勢の神 宮に拜しよ姨の倭姫の命草薙の劔と賜る	日本武の尊 辛亥正月朔日志く地震す○青洲の新史。五	東夷と平 法雄張伯路ときる	壬子	癸丑二月地震す	甲寅二月日南の地さうし長さ百餘里	乙卯	丙辰冬大臣の三年此喪を行ふとゆす	丁巳	天く才世祖漢修殷頭寂と○二月朔 日志く武庫やろろ六月わんろろ冬 或ハ雞子のごとくけりて六畜とら殺す	五 六 七 二 三 四
--	------------------------------	------------------	----	---------	------------------	----	------------------	----	---	----------------------------

八月 戊午鄧通と武陽侯と封し任尚と布よす	己未二月地震四月大凡わらんろ●豫章の草生す	庚申四月子の保と皇太子とす○揚震と司 徒とと	辛酉三月鄧太后崩す鄧騭と上蔡侯と封建 帝の考清河孝王と追尊て孝徳 皇と一妣と考徳后と○薛包と侍中 とす薛包しけと鄧騭と羅侯とす 憤りて自害す刘愷と太尉とす十一 月大臣の三年此喪と行ふと禁し	壬戌四月電ぬろ大さ米のどし○汝南の 黄憲死す	五 五 五 五 五
-------------------------	-----------------------	---------------------------	---	---------------------------	-----------------------

即姫薨す一傳す七月七日八坂入姫と皇后とす

五三 八月帝日本癸亥 四月乳母王聖と野王君と封じ○七月二
武の尊武尊武甕武甕丹次山丹次山○楊震と太尉太尉とす

五四 九月十九日甲子三月揚震が太尉の仲と收り郡を改り○三
伊勢より天伊勢揚震揚震自害す秋太子保と廢し濟陰王とす

五五 二月東道乙丑二月帝崩す后の間氏幼き君と立て
政とがわまきよせん爲り間頭が軍と
ら濟北惠王の子懿と迎て位を授けしむ

才七 北郷侯才七 諱ハ懿章帝の孫なり三月
位を授けしむ十月崩す王康

六 八月彦狹嶋丙寅才八 須帝才八 諱ハ保安帝の子なり
乃王の子御乃王の子御諸別乃王よ詔して東国と鎮しむ

老 九月勅して丁卯 六月帝の母李氏と追尊て恭愍皇后
坂手の池坂手の池とす七月許敬と司徒と樊英と揚
厚と黃瓊とよりして議郎とす

六 百十百帝近戊辰 正月地震六月ひでり
詔の志賀よ幸し穴穗の宮より傳すし三年○熊野の

新宮と紀伊の郡熊野の地よる

己巳五月桂陽より大なる珠とさく

元 十月七日帝庚申

穴穂乃宮りて崩すはと壽百四十三歳

元 才成務

辛未九月翟腫が諫よりて大柰校とたて

二百甲の房千八百五十の室はく

諱ハ稚足彦の尊先帝才四の皇子なり母ハ八坂入姫し

ハ八坂入彦の命の女なり此九歳して太子よまら甲

九歳して正月五日位よりこの位よりはすして六十

年都と志賀より一高穴穂の宮しよの元禄

二 十月十日先壬申

帝と大和の山邊道の上の陵よりありてまつ

三 正月七日武の癸酉

乳母の宋娥と山吹野とす四月京師地震

内ノ宿称と大臣とと

と七月太尉の庵参とくれつ

四 詔して国郡

甲戌十月日徒の刈琦司空の孔扶とるる

乙亥四月梁高と大將軍とす

五 造長と置縣邑

丙子十二月王龔と太尉とす

丁未四月地震と

六 成實

閏四月祝良と九真の太守と張喬と

交趾の刺史とす九月武くして將たる

七 巳卯

八月地震す

八 庚辰

二月地震す

二 三 四 五 四 五

十一	辛巳	八月梁商死す梁冀と大將軍す○六張陵道書と廿四卷はく	漢安
十二	壬午	曹娥江よ身と投げ死す	二
十三	癸未	四月子の炳と太子よ八月帝崩す	建
十四	甲申	九月憲陵よ八月炳位はく	康
十五	乙酉	梁太后朝よのじ李固と大尉す	永
十六	丙戌	九才 冲帝 諱ハ炳煇帝の子なり正歳は九才 質帝 諱ハ續章帝乃玄孫なり	嘉
		○四月諸国よ詔して經よ明り者と大太子よと業とら者	初

十七	丁亥	三方余人○閏六月梁冀毒と帝と殺す太后よよりして太尉の李固とくから河間孝王世子志と迎て位はく大后と朝よ臨じ	建
十八	戊子	十一才 桓帝 諱ハ志章帝の曾孫なり	私
十九	己丑	喬と太尉と梁冀よ二万三千戸とありわく其宗族と列侯とを○帝梁冀が姦と用ひ李固と杜喬ととらる	三
廿	庚寅	八月大水九月地震して山はく	三
廿一	辛卯	天竺の支識波よより佛經と翻譯す	三
廿二	壬辰	正月張陵梁冀が罪と劾す詔して	嘉
廿三	癸巳	世尊の入滅	嘉
廿四	甲午	仲哀天皇	嘉
廿五	乙未	ひまらふ	嘉

千百年

千百年

廿三

壬辰

正月地志

二

廿二

癸巳

河水いでて田畠

二

廿一

甲午

帝黄金して釈迦と老子との像を鑄り

二

廿

乙未

司隸冀州飢饉して人々を食らふ

永壽

廿九

丙申

李膺と度遼將軍と

二

廿八

丁酉

四月晦日

三

廿七

戊戌

七月太尉の黄瓊

延熹

廿六

己亥

八月帝梁冀が威を憚り

二

廿五

徐璜等

と謀り梁冀を誅し其門七

十八人皆死

廿四

庚子

五月漢中山

三

廿三

辛丑

正月嘉德殿やう疫病

四

廿二

壬寅

やう五月雹やう六月地震

五

廿一

癸卯

九月太尉と司空

六

廿

甲辰

二月黄瓊死す葬

七

廿九

乙巳

七月太尉乃楊秉

八

廿八

丙午

天子才廿二祖

九

廿七

丁未

天子才廿二祖

九

廿六

戊申

天子才廿二祖

九

廿五

己酉

天子才廿二祖

九

廿四

庚戌

天子才廿二祖

九

廿三

辛亥

天子才廿二祖

九

廿二

壬子

天子才廿二祖

九

廿一

癸丑

天子才廿二祖

九

廿

甲寅

天子才廿二祖

九

廿九

乙卯

天子才廿二祖

九

廿八

丙辰

天子才廿二祖

九

廿七

丁巳

天子才廿二祖

九

廿六

戊午

天子才廿二祖

九

七	丁未	佛敎よりして百年よりなる。十月帝崩。永	康
六	戊申	實武皇后政とて。實武。築とて。あ	康
五	己酉	實武皇后。子の宏と迎て。位。う。う。	康
四	庚戌	才。靈帝。諱。宏。章。帝。此。女。孫。なり。	建
三	辛亥	蕃と高。秋。郷。侯。の。封。下。實。武。と。聞。者。侯。	寧
二	壬子	實武皇后。太子と南宮よりす。	寧
一	癸丑	東萊の海水流出て。人。も。方。物。も。志。げ。も。	寧

三	癸丑	七月。唐。珍。と。司。空。と。す。	二
四	甲寅	三月。五。經。の。文字。と。石。と。変。て。大。李。門。の。外。	三
五	乙卯	三月。五。經。の。文字。と。石。と。変。て。大。李。門。の。外。	四
六	丙辰	宜陵の考るる子と奉て太子の舎人とす。	五
七	丁巳	春。張。顯。と。大。尉。と。す。○。司。徒。の。馮。巡。の。驛。	六
八	戊午	人。と。生。四。月。雌。雞。化。して。雄。と。なる。六。月。温。	光
九	己未	德殿の庭。黒。き。もの。に。つ。つ。形。竜。と。依。り。	私
十	庚申	長。と。十。余。丈。七。月。青。と。虹。玉。堂。殿。乃。庭。	私
十一	辛酉	よ。の。う。ら。う。○。と。め。て。官。と。賣。	私
十二	壬戌	二月。朔。日。本。	私
十三	癸亥	二月。朔。日。本。	私
十四	甲子	二月。朔。日。本。	私
十五	乙丑	二月。朔。日。本。	私
十六	丙寅	二月。朔。日。本。	私
十七	丁卯	二月。朔。日。本。	私
十八	戊辰	二月。朔。日。本。	私
十九	己巳	二月。朔。日。本。	私
二十	庚午	二月。朔。日。本。	私
二十一	辛未	二月。朔。日。本。	私
二十二	壬申	二月。朔。日。本。	私
二十三	癸酉	二月。朔。日。本。	私
二十四	甲戌	二月。朔。日。本。	私
二十五	乙亥	二月。朔。日。本。	私
二十六	丙子	二月。朔。日。本。	私
二十七	丁丑	二月。朔。日。本。	私
二十八	戊寅	二月。朔。日。本。	私
二十九	己卯	二月。朔。日。本。	私
三十	庚辰	二月。朔。日。本。	私

この皇子は仲彦の母と太子よたてて治ふ。あ。ん。す。う。小。本。武。の。よ。の。ん。生。乃。折。は。あ。ひ。か。う。一。度。ま。し。た。け。切。た。り。ま。し。た。け。す。ふ。う。ら。の。子。と。ま。ま。こ。日本武とてその皇子はみこしを實やまといふ。けの。あ。ま。こ。む。ら。の。の。り。

四	五	五	五	五	五	五	五	五	五	
己未	庚申	辛酉	壬戌	癸亥	甲子	乙丑	丙寅	丁卯	戊辰	
四月壬午と誅す大尉の段熲自害すの維二 陝西門の外は女頭二つの子とむ	九月後官より布町より帝商の服式 着てしはまより酒宴をかりて樂とむ				二月黃巾の賊張角と作て七月巴郡の中 張倫とむくんと末賊と八月皇甫嵩 と遣して黃巾の賊と誅伐せしむ	三月崔烈錢五百万を實て司徒とかり	二月趙忠と將軍とす○南宮と修りて銅人 と鑄る○支婁迦維首楞嚴經と翻譯す			
二	三	四	五	六	中	二	三	四	五	

五	五	五	五	五	五
己巳	己巳	己巳	己巳	己巳	己巳
四月帝崩す太子辨位より何太后政とす 才弘農王 議ハ辨靈帝の子から九 月將軍董卓帝とす 弘農王と陳留王恒と迎て位より即しめ 何太后と殺し十一月より相國とかり 劔とくき履とくいて官殿と出入と	才 議ハ愍靈帝の子から位より 初 農王と殺す王亮と司徒とす三月董卓都 と長安より一浴陝乃官廟とやく○表	才 議ハ愍靈帝の子から位より 初	才 議ハ愍靈帝の子から位より 初	才 議ハ愍靈帝の子から位より 初	才 議ハ愍靈帝の子から位より 初
六	六	六	六	六	六

六月十日帝
御惱り
して高穴穂
宮と崩す

年代紀

卷之四

十三

孝壽百歲

六 乙未

九月六日 帝と休の挾 城指列の陵

紹表術劉表とあく共起して董卓とつ

二月長沙の太守孫堅董卓とつ董卓や二
からして西より六月表紹とつ冀州
と鎮して曹操と東郡の太守とつ公孫
瓊劉備と平原の相とつ表術孫堅と
遣し劉表とつし黄祖とたふて孫堅
射ころとつ

元 才 仲哀

甫

四月董卓帝と幾り自天子は擬司三
徒の毛元中郎將の呂布董卓とつ殺す
毛元と尚書とつ呂布と奮威將軍とつ
もとに政とつ董卓余黨毛元とつろす
乃尊才二の御子りり母の兩道入婚とつ子孫に天皇の御女
なり此一歳りて太子とつ甲五歳の正月十日位は即ち

三

九年 九月魏道入婚とつ自天子は擬司三
十月諸國の貢自鳥と献し閏十月甲異母の才蒲見
別の王と謀す 乙未 元禄六年まで千五百二年より

二 正月十日氣 癸酉

正月曹操表術とつてやがう表術揚列
と鎮す 表紹子表譚青州の刺史とつ

四

二月六日帝越前角鹿一 行の官とた
てて居る前飯の宮とつ武内宿称と大臣とつ大伴
の武持と大連とつ今乃左右大臣のし也三月熊龍衣と
ひく帝とつ征伐とつ御舟とつ
常邑の津より穴門は船幸わら豊浦の宮とつ
七月五日皇居豊浦の津泊り海中より如意の珠と

三 えあふ

甲戌 表術孫堅子孫策と懐義校尉と
兵千余人と鎮し

與

四	乙亥正月曹操出布とるがら袁紹と右將軍二 と六月張濟帝と迎て東に敗る十二月 帝弘農より張濟帝と陝に追帝河 とにりて李樂營より	五	丙子七月帝浴臥する曹操帝と許より 自武平侯に封せらる劉備曹操降 安 參予豫め乃牧ととも○千歲室堂和尚 天竺よりきり	六	丁未正月袁術帝と称す九月曹操袁術 とつて走す○劉備揚奉とつす	七	戊寅冬曹操出布とる○劉備と九將軍 孫策と吳侯に封す	八	己卯正月築紫 三月公孫瓚とつて焚死○袁術血 四
---	--	---	---	---	-----------------------------------	---	------------------------------	---	-------------------------------

一幸一擡
 の宮よあふ九月吾群臣と熊龍衣とつてんとはつた
 まふ熊龍衣とつとき先新羅とつてんとはつた
 あれども帝信ども守熊龍衣とつて敵陣とつて強
 くしてあつてゐる

九	二月六日帝庚辰 檀目乃宮よ て崩す まふ壽年 三歲皇后武内等の諸臣といふ帝の崩御とつて 泰然と長門の穴門より豊浦乃宮よへ殯す三月皇 后三韓と征伐しあふ十月新羅百濟高麗とつて 平ぐ十二月皇后新羅より同十月築紫とつて	五	正月曹操劉備とつて破る劉備冀州より 一○孫策矢に中り死すとつて孫權 らて其衆と領す九月袁紹曹操とせめ て袁紹敗軍とつて孫權と討虜將軍と
---	---	---	--

田別の尊とて同月底筒男中筒男表筒男の
神長門の豊浦の郡と跡とて住吉の明神と也

元才神功皇后

長足姫

彦

四月曹操表詔とてやが九六

乃尊開化天皇の曾孫
氣長乃太子妃たり

月曹操列備とつ列備荆がよ
くく表列備が来るとさ目
巡よて上賓の礼とサてま

母八葛城の宮高親姫といふ廿四歳とて居よとら死三歳
りて政よのぞとあふ位よまういほとて辛九年〇二月皇
后京よ向いあふ時よ鹿野坂乃至し忍熊の至し謀及して
とよ小いぞ狩す赤さ猪いで鹿野坂とて殺す三月晋
武内乃宿称よ命して忍熊とてし忍熊瀬田よ沈
て死す〇十月二日群臣神聖とたてまら皇居乃位よつき
ありんととて皇居くく辞しあひて皇子よ代りて万

機と擬んとあふ群臣とく々議り皇居と察と皇居
といふとれと擬政のくくまると武内乃宿称よ大臣と
田道間乃連と大連とすのれと元禄六年癸酉の
やうまで千四百九十三年よらる〇世尊乃入滅千百五十年

二十月八日先帝と河内幸
五月表詔敗軍と憤り病と癸七
乃長野の陸と葬とも

三正月三首菅田別乃尊
表詔と表尚と兄表不和は八
太子よとらあふ都と
てたひいよ攻何ふ

四
甲申曹操表尚とせむる表尚破ら九
て幽列よ走る曹操難よい

五二月七日新羅より行
し酉正月曹操表譚と攻てま〇幽十
礼斯伐と毛麻利叱

列乃将吏き黒山の賊曹操降参す

智く富羅母智くと使として珍宝と八十艘とく

六 丙戌 正月仲長統と尚書郎とん 十一

七 丁亥 二月曹操功あり臣と列侯と封す○公孫康と 十二

教尚と表熙ととらるす○諸葛亮隆中 十三

とて刘備と懐みゆ 十四

戊子 正月曹操委武地と作り舟師とり入す 十五

八月刘表死す子の刘琮曹操と降参す 十六

○蜀の刘備諸葛亮吳の周瑜魯業と 十七

兵と合せ赤壁とて曹操とたり曹操 十八

大に敗軍と○六月三公の官とやめて 十九

曹操とて丞相とたり 二十

己丑 廿三祖鶴歎那寂す○孫權と妹と 廿一

刘備とあわりん 廿二

十 庚寅 十月曹操銅爵臺と作る○孫權と將周 廿三

瑜死す魯業とらりて將とたり 廿四

辛卯 正月曹操子曹丕と丞相の副とす 廿五

壬辰 正月曹操斂と帯履とて威と往來と 廿六

五月曹操と魏公とたり九錫と加へ 廿七

七月宗廟社稷ととる 廿八

三 仲哀天皇と 廿九

角鹿の津 三十

よ念り気比の大眼神と崇奉る太子大眼神と拜とる 三十一

甲午 三月曹操諸侯の上の位とす帝の后と 三十二

皇子と弑す○刘備諸葛亮と軍師 三十三

將軍とん 三十四

乙未 張魯曹操と降参す鎮南將軍とん 三十五

丙申 五月曹操魏平とたり鍾繇と相國とす 三十六

崔琰ととらるす 三十七

廿七	己酉	正月曹操孫權とる孫權降参す○廿	曹操子の曹丕と太子とす
廿六	戊戌	七月操死備とる	
廿五	己亥	七月操備漢中平なる十月孫權死備	備
廿四	庚子	魏の文帝曹丕○正月曹操死す子乃	丕
廿三	辛丑	文帝とる十月文帝漢の	帝と祭して山陝公を
廿二	壬寅	帝と祭して山陝公を	皇帝と
廿一	癸卯	帝と祭して山陝公を	皇帝と
廿	甲辰	帝と祭して山陝公を	皇帝と
十九	乙巳	帝と祭して山陝公を	皇帝と
十八	丙午	帝と祭して山陝公を	皇帝と
十七	丁未	帝と祭して山陝公を	皇帝と
十六	戊申	帝と祭して山陝公を	皇帝と
十五	己酉	帝と祭して山陝公を	皇帝と
十四	庚戌	帝と祭して山陝公を	皇帝と
十三	辛亥	帝と祭して山陝公を	皇帝と
十二	壬戌	帝と祭して山陝公を	皇帝と
十一	癸亥	帝と祭して山陝公を	皇帝と
十	甲子	帝と祭して山陝公を	皇帝と
九	乙丑	帝と祭して山陝公を	皇帝と
八	丙寅	帝と祭して山陝公を	皇帝と
七	丁卯	帝と祭して山陝公を	皇帝と
六	戊辰	帝と祭して山陝公を	皇帝と
五	己巳	帝と祭して山陝公を	皇帝と
四	庚午	帝と祭して山陝公を	皇帝と
三	辛未	帝と祭して山陝公を	皇帝と
二	壬申	帝と祭して山陝公を	皇帝と
一	癸酉	帝と祭して山陝公を	皇帝と

廿七	辛未	蜀一昭烈帝	姓ハ劉諱ハ備字ハ玄章
廿六	壬申	呉の太帝孫權	十月孫權死つとき
廿五	癸酉	呉の太帝	呉の太帝といふ都と武昌とたて年号
廿四	甲戌	後主	諱ハ禪字ハ公嗣昭烈帝
廿三	乙亥	二月	の子なり位あり甲午
廿二	丙子	二月	二月
廿一	丁丑	二月	二月
廿	戊寅	二月	二月
十九	己卯	二月	二月
十八	庚辰	二月	二月
十七	辛巳	二月	二月
十六	壬午	二月	二月
十五	癸未	二月	二月
十四	甲申	二月	二月
十三	乙酉	二月	二月
十二	丙戌	二月	二月
十一	丁亥	二月	二月
十	戊子	二月	二月
九	己丑	二月	二月
八	庚寅	二月	二月
七	辛卯	二月	二月
六	壬辰	二月	二月
五	癸巳	二月	二月
四	甲午	二月	二月
三	乙未	二月	二月
二	丙申	二月	二月
一	丁酉	二月	二月

廿	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五	廿六	廿七	廿八	廿九	三十
己巳	丙午	丁未	戊申	己酉	庚戌	辛亥	壬子	癸丑	甲寅	乙卯
五月魏より舟師を遣はして呉を討つ	五月魏の文帝死す子の廢はく八月呉より魏を討つ魏の司馬懿呉の軍をやつ	●魏の明帝歿○太和元年	正月諸葛亮魏よりつて敗れつ後主諸葛亮と戦して右將軍とな	諸葛亮丞相となり四月呉の太帝自帝の七	佐よつき年号と黃龍と改め都と建業より	十月魏聽訟觀となつ律の博士とな	十月呉の師魏の兵をわびてやつ	呉の景初元年	正月魏より黃龍をらつ年号と青龍とし	改め公孫淵と樂浪公とな
三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三

廿九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十
己未	庚申	辛酉	壬戌	癸亥	甲子	乙丑	丙寅	丁卯	戊辰	己巳	庚午
まゝ寅の月と歲のまゝと	正月魏の明帝死す子の芳はく○魏	とらわづら公孫淵と	其の赤烏元年の八月魏の司馬懿遼東	燕平をらつ年号と紹漢とし	とす年号と景初と改め公孫淵と	とす年号と景初と改め公孫淵と	四月蜀の蒋琬と大將軍と費禕と尚	書令とす八月魏の明帝子の芳と燕平と	軍中を死す忠武侯ととらわづ	三月漢の獻帝魏を死す八月諸葛亮	改め公孫淵と樂浪公とな
二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三

甲	庚	辛酉	壬戌	癸亥	甲子	乙丑	丙寅	丁卯	戊辰
●魏の曹芳正治元年	吳の康僧會江南に建初寺とす	吳子の和と太子とす此霸と魯王と	十月野費禕と大將軍とん	三月心	吳の陸遜死す八月蜀の大臣崩す	蔣琰なむびの董允死す	九月吳赤陽と丞相とす蜀姜維と衛將軍とす	二月吳太初官とん魏の曹爽大臣とす永寧宮より川一政とほなる	廿四祖師子尊者寂と
三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二

兎	辛	五	五	五
二月荒田別 と鹿毛別 と新羅ははる一服せうと責め新羅の毛和と使と て珍定と八艘とす百済の毛藩と稱て來朝貢とす	二月新羅は 使へり	二世尊の入滅 辛未 吳の太元元年八月魏の司馬懿死と子 乃司馬師と撫軍將軍とん	三月百濟より又使と使して金銀錦練とれてま	九月百濟國 ●吳の孫亮○建興元年四月吳の太帝死 乃又使と 來りて種々の珍宝とす
三	三	四	五	五

五

癸酉

正月盜賊の費律と殺す。吳の諸葛恪。魏の新城とくんでかどと及吳諸葛恪と南次王和と殺し孫峻と丞相と

五

甲戌

魏の曹髦。正元元年。吳の五鳳元年。九月魏の司馬師その子曹芳ととて

五

乙亥

正月魏の司馬師死す。二月とて司馬懿とつゝ大將軍とたつ。吳は太康と作る

五

丙子

魏の元帝曹真。景元元年。五月魏の司馬懿とて敗軍す。姜維師とす

貴須佐と

五

丁丑

吳の景帝孫休。永安元年。九月吳の孫綝。其君孫亮と廢して會稽王と孫休と迎暉

五

戊寅

吳の孫亮。自害と

五

己卯

魏の元帝曹真。景元元年。五月魏の司馬懿とて敗軍す。姜維師とす

五

庚辰

魏の元帝曹真。景元元年。五月魏の司馬懿とて敗軍す。姜維師とす

五

辛巳

吳の朱仕。洛陽とて道行般若とて是

五

壬午

魏の司馬懿とて敗軍す。姜維師とす

五

癸未

魏の司馬懿とて敗軍す。姜維師とす

五

甲申

魏の司馬懿とて敗軍す。姜維師とす

降参す蜀代甲三年よりしてはるふ

具

益百濟國の貴甲申

●吳の孫皓元興元年○三月魏の司馬昭之

魏

須美死す子の枕流つく

つゝ晋平より蜀の禪と安条公を封す○吳の景帝死す姪の孫皓に繼ぐ

魏

五五月百濟國の枕流死す子の阿花と母の叔父の辰斯徳とつるふ

●晋の武帝の元○吳の平臨元年○八月魏の司馬昭死す子の炎に繼ぐ○吳の孫皓の司馬大元帝と

晋

花と母の叔父の辰斯徳とつるふ

廢して陳留王とし自帝位よりくられ武帝とし魏の文帝より五代甲卒して魏はらび晋より天竺の佛門生法護浴陽よりきたる燉煌菩薩と名づく

晋

花と母の叔父の辰斯徳とつるふ

○吳の都と建業よりいふ

晋

花と母の叔父の辰斯徳とつるふ

○吳の都と建業よりいふ

晋

丙戌

吳の望都元年○正月晋七乃藩とこの

二

充

丁亥正月晋子の震と太子と蜀の李令伯と

三

充

六月吳よ昭明宮と作り

四

充

四月十七日皇已七吳の建衡元年十月吳の左丞相陸凱死す

五

后若櫻の宮より崩す一歳す壽百歳八月百濟王新羅高麗と使よりもん使とほり御崩御とすひ金銀

元

庚寅

六

應神

譚ハ答田別の尊仲哀天皇才四の皇子也

母ハ神功皇后なり四歳して太子よとら七十一歳よりして正月朔日位よたき治位よゆまたし甲子年都輕嶋の地よんす豊明の宮よんれより元祿六年まで千四百廿四年

二	三月	晉仲雄と后とつう	辛卯	晉大寧の七月	吳交趾とらう	七
三	十月	日蝦夷來朝	壬辰	吳の鳳凰元年	七月	晉賈充と
		賈とくく東の蝦夷と		司空とす	晉の河外	泉とさい
		役て廢坂の道と作り		り飲者	老す	
四	四月	百濟の辰斯王をひ	癸巳	四月	吳の侍中	韋昭と殺す
		帝諸臣とをく		晉公卿の女と選て	六宮	賈と
		每礼とせめ		陳花王と	を	
五	十月	倭意の國よとせて	甲午	晉安の子と嬪子と	と	十
		大なる船と作り		禁し	七月	晉山濤と李都
		十丈		秘紹と秘書丞と	す	
六	二月	帝近江の菟道野	乙未	吳の天冊元年	六月	索頭子と
		乃上よ		晉	は	く
七	九月	新羅百濟高麗任	丙申	吳の天璽元年		

那の國より使と遣一貢とくく帝武内の宿稱と鎮と
 三韓の人とて他と作りしれと韓人の他と名く

八	三月	百濟人來朝す	丁酉	吳の天紀元年	冬	吳の晉奇と	三
九	四月	武内の宿稱と築	戊戌	宵	晉	夫水と	四
		紫まつら		異なる服と	飲	と	
		内の宿稱		預と鎮南將軍と	す	羊祐死と	
		内逆心あり		武内	築	紫と	
		久ら耳美内		熱湯と探りて	偽と	たす	
		は					
十	二月	小經見躬の命と	己亥	十月	晉	兵	五
		熊羆國の造と		けて	吳	と	
十一	十月	日向の國より		三月	晉	の將軍	五
		長媛の美人		吳の孫皓	降	と	

まうす

より四代平年よりて吳はるび晋
天下とあはす孫皓と敗命侯と封す

辛七

三月吳の官女五千人を晋の官より

二

壬寅

三月大鶴鷄の尊髪長

三

姫と戀志ひひの帝察しひ髪長姫と尊たまり

壬寅

三月大鶴鷄の尊髪長

三

四月百濟より裁縫す奈飛冬皇の孫皓死す

甲辰

正月龜のつら

四

八月百濟より易孝經

甲辰

正月龜のつら

五

論語山海經なりびよ金銀錦練良馬なりとさく

乙巳

王渾と尚書僕射と

六

二月朔百濟の壬辰と己巳王渾と尚書僕射と

乙巳

王渾と尚書僕射と

六

り千字文とさく皇子稚郎子壬辰と師して李問

乙巳

王渾と尚書僕射と

六

より百濟の阿花王死す帝直支王と百濟より入して位

乙巳

王渾と尚書僕射と

六

はり東韓の地とたまり

乙巳

王渾と尚書僕射と

六

七

甲午

望法護正法花經と翻譯と

七

八

丁未

正月朔日と

八

九

戊申

八月星たつと雨のど

九

十

己酉

武帝の子なり位

十

十一

庚戌

才 惠帝 譚八袞字八成度

十一

十二

辛亥

武帝の子なり位

十二

十三

壬子

武帝の子なり位

十三

十四

癸丑

三月后の賈氏楊駿と殺し六

十四

十五

甲寅

三月后の賈氏楊駿と殺し六

十五

十六

乙卯

月諸王と入りす

十六

十七

丙辰

九月六日吉備の國山崎嶋と新

十七

十八

丁巳

九月六日吉備の國山崎嶋と新

十八

十九

戊午

九月六日吉備の國山崎嶋と新

十九

二十

己未

九月六日吉備の國山崎嶋と新

二十

廿一

庚申

九月六日吉備の國山崎嶋と新

廿一

廿二

辛酉

九月六日吉備の國山崎嶋と新

廿二

廿三

壬戌

九月六日吉備の國山崎嶋と新

廿三

廿四

癸亥

九月六日吉備の國山崎嶋と新

廿四

廿五

甲子

九月六日吉備の國山崎嶋と新

廿五

廿四

廿四

廿三

禁中の系の相の木よ果とけり

百濟の眞文王。甲寅 傳咸死す慕容慮大棘城より

死す余卒て

乙卯 六月東海郡よりありん

丙辰 張花と司空とん

九月高麗より丁巳 正月將軍周處たひ死す九月義と司徒とす

表とて貢す表の文亦改なりふより稚郎子の尊

表とやづらふ太子なりびよ郡臣百濟の博士と師と

て經史と文字ふれ日本よて中国の書とらゆりてめ也

戊午 成都頼と平北將軍と河間王顯と鎮西將軍と

己未 三月尉氏より血少妖星南より見れ太白ひり

八月伊豆の國より貢し 三月尉氏より血少妖星南より見れ太白ひり

わりの四月趙王倫自相國となり九錫とひ康

枯野の船橋よりふより禁て塩の薪と其燈と琴と作じ

世尊の入滅 辛酉 正月王倫より皇帝と稱し惠帝と金

千二百五十

年よたふ

壬戌 巴氏の李特宏漢よりて謀叛と

癸亥 前涼の張軌前燕の慕容暭が元年〇二

春晋の羅尚李特よりてきり李雄より

て領て七月河間王顯成都王顯晋よりて

甲子 十月李雄自成都王の位よりき年号と建興

といふ匈奴の刘曜より漢王と稱し年号

と元熙とす〇十月帝長安よの張方

政とほりぬま

乙丑 八月東海王越范陟王虓と張方より

并代記

卷之四

廿五

光二月吳の國 丙寅 正月河間王顯張方と殺す ●李雄皇帝光
 より吳織漢 乃位よりき國と成と号一年号と 熈
 織四人の女 子○晋の劉与成都王穎と誅す十月惠
 とまてしまり 帝壽中して崩と十二月南陔王模河
 間王顯と誅と

光三月帝の御 丁卯 才 懷帝 諱熾字熾度武帝の子 永
 夢と日本武 乃尊自鳥 六年○五月汲桑石勒晋をたじく晋晉
 と化して 高天より入り 歸れと云汲桑死し石勒漢を降参
 とも十月王衍と司徒とん

光二月百濟の 戊辰 七月漢都と蒲子より十月●劉漢と
 玉妹の新奈 づり皇帝乃位よりき年号と 熈
 ままより尾張乃熱田よりづりあふとん法ふ

甲正月十曾稚 己巳 漢の河瑞元年○漢都と平陔よりつす○三
 耶子の尊 漢石勒と石ハハして晋を寇とす
 と太子またてり

四二月十五帝 庚午 ●漢の烈宗劉聰 光興元年七月漢乃高 四
 豊明の宮と 祖劉漢死と子の私にぐ漢がとく文聰
 て崩す一後 私と殺して位とる子晋拓跋猗盧と代
 と壽百十一 公と封す

三 心神天皇と 辛未 漢の靈成の 玉衡元年○三月晋の大傅越 五
 百舌野陵と 死す六月漢の軍晋の洛陽と階一太子
 葬らなる 詮と殺し懷帝と平陔と遷し平阿公とす

多ひて御位よりきめりば三年空位なり

今ノ八幡大菩薩とす此帝ノ御事也

三

大鶴鶴の尊

難波に在
太子稚郎

漢懷帝と會稽郡公と封す○前涼張
軌雍州の賈疋など漢の劉曜と破り秦
王業と晋の長安に入て太子よる

六

子ハ菟道よりゆ一死は位とゆひらて實と收るは四月
太子ハ小菟道を自害し大鶴鶴を方なりて位よる

元

仁德

癸酉

二月漢の劉聰懷帝とす四月晋の秦
王業長安とて位よる

建

講大鶴鶴
の尊先帝才
男の皇子なり
母仲姫と云
五百城入彦の皇子の孫なり五十七歳して正月三日位よ

才

愍帝
講ハ業字ハ彦旗武帝の孫
ナリ位よるは四年正月卿
王業と左丞相と南陽王保と右丞相と
陶侃と荆列の刺史とす

兵

つぎ高麗位よるは八十七年○正月都難波より高
津の官とす○これより元祿六年まで千三百十一年よる

二

三月八日葛城甲戌
の襲津彦
の命むすめ盤野姫と皇后よる

正月

四月の方よる三つなりびていつる皇平陽よ二
たらして化して肉とる長と此歩宏と廿七歩

二

三

乙亥

漢の建元

元年二月晋王睿と都督中外の
諸軍事と王保と相国と拓跋猗盧
が位よるめて代とる

三

四

二月六日帝た
丙子
の起る
人民の豊
よるに際

漢の麟嘉

代の麟嘉
●代の麟嘉
元年二月代の六
脩其君猗盧と弒す麟嘉律代王とる
十月漢の劉曜晋の長安と陷す愍帝
降太子廢して懷安侯とす西晋の武帝
より代五十二年よりして晋と絶す

四

多し勅して貧しき民と賑し三月廿日詔して二年其貧しきを

五

東一才元帝

諱ハ廢字ハ景又宣帝建
の曾孫ナリ愍帝嘗ヨ武

あふより位よつぎ國と東晋といふ位あり

し六年●前凉の張寔よりめて年号

とたて建興五年といふ十月漢の刘聰

愍帝といふと

六

戊寅

漢の刘聰より子とせ人禁殺す四月晋王太

導驃騎將軍関府後同三司と加ふ七兵

月漢の刘聰死す子の祭はく八月斬

祭と殺す●十月刘曜がくはぎ年号

七

四月朔帝楼

己卯

●後趙の石勒元年○四月漢都と長安は二

臺の登り

遠く烟のあけとんぬ御のあけの御哥あり

八

庚辰

●前凉の張茂永元元年五月刘弘張寔と

ころと寔とと張茂はく○趙大李といふ

九

辛巳

●代の賀正元年○七月晋王導と司空四

たに九月晋慕容皝と遼東公と封す○

代その君慕容律と殺す子の賀正はく

十

壬午

閏十月帝崩す太子位よりく王導政と輔

亮と中書監といふ○前凉の張茂趙と降参す

十一

癸未

●十月官北の祭
郊原と極南
と流る水と
引て西の海より入る

才明帝

諱ハ紹字ハ導景元帝の子太

かり位ありし三年○六月度寧

亮と中書監といふ○前凉の張茂趙と降参す

引て西の海より入る

引て西の海より入る

引て西の海より入る

田の堤をいいて北の河水と推し

三 七月高麗甲申 前涼の張駿太元元年五月張茂死を駿が二

ら鉄の指と鉄の的とさく八月指人の宿称よしと
射通さし高麗の使その勇力と畏る

三 九月始て次乙酉 五祖婆舍斯多叙す代の統那元年 三

田の凡舎と
たて春米
と收り十月
輪丹の池と
遊り横野
の堤とけく

五月晉陶侃と荆湘の都督とん閩
七月帝崩む武平陵より太子位よ
にき王導と庾亮が壺政とたすけ庾亮后
朝よのぞと政とさく十月代の賀傳死
とさく統那けく

十四 十月猪鹿居丙戌

才成帝 諱ハ衍字世祖明帝の子也
五歳を位めく位ありと七年

ワ一河水と下の鈴鹿卡以豊浦潤して田と旁余頃えり

十五 桑田秋賀戊子 後趙の太和元年三月庾太后崩す十二 二

姪死す
月後趙の石勒趙の刘曜とらてころを

十七 新羅朝せ己丑 代の毅槐元年八月後趙の石勒趙の 四

と遣一毎
太子胤とらす漢の刘漢より三代廿六
年より趙より代の統那走る毅槐より

礼とせし九月新羅より金銀種々の珍物とさげ其
罪と謝す履仲天皇生れま

十八 庚寅 後趙建元元年石勒より皇帝とかり 五

十九 辛卯 六

廿 壬辰 七

廿一 癸巳 八

前燕の慕容皝元年五月慕容廆死

廿五	廿四	廿三	廿二	廿一
			八男の皇女と して妃とせん らん皇后と あらず	
丁酉	丙申	乙未	甲午	
代の翳槐後乃元年○正月晋人李氏 ふら○慕容皝ふら○燕王とら趙 ふら○趙翳槐と代より○統那燕ふら	正月慧星あらし	成の李期王恒元年○後趙の石虎建武代 の統那後の元年○趙民の佛よはふらと ゆす○代の統那代より○翳槐趙より	後趙の石虎延熙元年○六月晋の陶侃 死○成の李雄死す子班は冬李越班 と弒しと期とたてて○趙の石虎其 君弘と弒し自ら居攝天王と称す	と子乃就はく七月後趙の石勒死す子 の弘はく八月石虎ふら○丞相となる
三	二	康	成	九

廿	廿	廿	廿	廿	廿
			八男の皇女と して妃とせん らん皇后と あらず		
戊戌	丁酉	丙申	乙未	甲午	
代の什翼犍建國漢の李壽漢興元年四 月成の李壽其君李期と弒して自つと 國と改め漢と子○六月晋主道と丞相と も○十月代の翳槐死すと什翼犍は	七月晋の王道死す	正月晋の庾亮死す○義之麴の敬崇寺と建	六月帝崩と瑯琊王岳はは成帝の 子と瑯琊王と何亮と徐川の都督と 山背の同城の宮より入つて入り治す	正月晋去 癸卯	正月十五晋去 癸卯
四	五	六	七	八	九

才 康帝
諱岳字世同成帝のとき
から位より二年漢の李
壽死す子其黎はく身の長七尺九寸腰大十圍

年代記

卷之四

九

廿二	甲辰	漢の李桀 太祖元年九月帝崩す 太子子冊位より 褚太后朝を臨し政を 行す	二
廿三	乙巳	才 穆帝 年二歳を位より 行す	承 和
廿四	丙午	漢の張駿 涼王と稱す 十月張駿死す 涼王と稱す	二
廿五	丁未	漢の張駿死す 子重花はく 晋の李雄より五代 四十五年より漢 が太子勢と叔 義侯と封す	三

廿六	戊申	晋の植温と征西 大將軍は九月燕 の慕容皝死す 子の世はく兄の 逆を討つ	四
廿七	己酉	前燕の慕容皝 元年正月趙の 石虎は五月石 虎死す	五
廿八	庚戌	後趙の石祗 永安元年正月 趙の閔石監と殺 す	六
廿九	辛亥	前秦の苻健 皇始元年四月 後趙の劉	七

千三百年

千三百五年

千三百十年

甲 反正天皇生壬子 四月燕の慕容恪丹陽と殺と魏より十八

月慕容恪皇帝と稱年号と

四 三月紀角の癸丑 十月涼の張重華死す子の曜靈はく九

月慕容恪皇帝と稱年号と

三 九月帝百舌乙卯 六月秦苻健死す苻生を殺す

涼王と稱す四月晋の桓温秦の兵をやぐ

甲寅 前涼の張祚 元年正月張祚より十

月慕容恪皇帝と稱年号と

二 正月涼使より六にて秦より

前燕の苻生を殺す

丙辰 正月涼使より六にて秦より

前燕の苻生を殺す

丁巳 前燕の苻生を殺す

秦の苻堅苻生を殺して

戊午 八月秦の張平熱より

前秦の取露元年

庚申 前燕の苻生を殺す

死す子の暉はく晋謝安と征西司馬と

辛酉 晋帝崩す瑯琊王不佞はく

才 哀帝 位はく四年

壬戌 河内八國より

淡田の郡より

五 癸亥 涼の張天錫其君張玄靚と殺して自はく

年代記

五	五	五	五	五	五	五	五
甲子	乙丑	丙寅	丁卯	戊辰	己巳	庚午	辛未
前凉の張天錫元年○三月帝疾ふ太政と撰り	新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵	新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵	新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵	新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵	新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵	新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵	新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵
二	三	太	二	三	四	五	

前凉の張天錫元年○三月帝疾ふ太政と撰り

新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵

新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵

新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵

新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵

新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵

新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵

新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵

新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵

新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵

新羅の建元元年○三月帝崩て平安陵

より代六十年よりてはらふ

南の二夜を歴

本二本路と夾て生じ

辛未

簡文帝

諱ハ景字ハ道満元帝也

東海平一會秘晋王是にして位よはら

辛未

高麗よとらるハ佛法東漸也

化して白き鹿となり野中よあげい

癸酉

孝武帝

諱ハ曜字ハ昌明簡文帝

七月晋の植温死

甲戌

先恭天皇生

大井川より大木流しいつる大さ十圍

七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
丙戌	丁亥	戊子	己丑	庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未
●北魏才道武帝拓跋珪登國元年代の什翼 健が孫拓跋珪代と再興一都と盛泰より 一四月国とわさめ魏といふ●前秦の苻 登太初●西燕の慕容永中興●後秦の建初 ●後燕の建興元年●後涼の呂光国とて 年号と天安といふ●西燕慕容冲と弑し改 隨とつらるる改隨と弑して忠とつら六 月忠と弑して慕容永とつらるる	十二月涼飢饉して人といふ	●其祖不如密多殺す●西秦の乞伏乾飯太初 元年六月西秦乞伏國仁死すとも乾飯つら	後涼の麟嘉元年	●晋の序の惠遠法師白蓮社とす	八月慧皇つら墨戲と詔して禱し七月先設ら	十一月後秦の姚萇死す子の姚興はく	●前秦の苻崇延初●後秦の姚興鑿元年 七月姚興前秦の苻登と殺す子崇つら	八月後燕の慕容垂西燕とほりけり慕容 容永と殺す父前秦の苻崇西秦とつて 破らして死す苻健より六代甲申はて滅	●後燕の慕容宝永康後涼の ●北魏の世
十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十

七	六	六	六	六	六	六	六	六	六
己丑	庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌
●晋の序の惠遠法師白蓮社とす	●晋の序の惠遠法師白蓮社とす	●晋の序の惠遠法師白蓮社とす	●晋の序の惠遠法師白蓮社とす	●晋の序の惠遠法師白蓮社とす	●晋の序の惠遠法師白蓮社とす	●晋の序の惠遠法師白蓮社とす	●晋の序の惠遠法師白蓮社とす	●晋の序の惠遠法師白蓮社とす	●晋の序の惠遠法師白蓮社とす
十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三

	五	六	七
<p>皇始元年○四月後燕の慕容垂死す子の室 胤九月晋の張氏帝を弑す太子徳つぐ</p>	<p>丁酉 安帝 諱徳字徳宗孝武帝乃子隆 廿九年南涼の安</p>	<p>戊戌 後燕の慕容盛建平 南燕の慕容徳 北魏の天興元年</p>	<p>己亥 後涼の呂纂威寧後燕の長孫後秦の昭 元元年八月南涼の秃髮烏孤死す子刺鹿孤 十月後涼の呂光死す子乃呂纂はく</p>

正月十六日帝難波の宮にて崩す由す壽百甲三歲住吉仲の皇子謀反と瑞葉別の皇子刺領中と詔し仲の皇子を殺す十月七日仁徳天皇と百舌鳥野の陵をえりてまはる

卷之四終

